

1 研究主題・研究内容・方法等について

(1) 研究主題

見通しをもち、自律的に学ぶ児童の育成
～一人一人の「できた!」を支える授業づくりの工夫と組織的支援～

(2) 主題設定の理由

本校は令和2年度より、自律的な学習を基盤とした学習環境デザインに取り組んできた。昨年度は、研究主題を「他者と協働し、主体的に学び続ける児童の育成～自律的な学びを促す教師の見取りと働きかけ～」とし、児童の育成と学力向上の相関を検証した。自己決定理論に基づく学習動機尺度の調査では、「同一化的調整」の数値が最も高く、児童が学習に対して「自分にとって価値がある」「将来に重要だ」という明確な目的意識を持っていることが示唆された。また、「内的調整」の数値が「外的調整」「取り入れ調整」を上回っている点は、外部からの圧力ではなく自発的な意志で行動できているという本校の強みである。しかし、高い目的意識を持ちながらも、実態には大きな課題が残った。「単元テストの年間到達度平均」及び「標準学力調査」において学力の向上が見られず、さらには、「見通し・協働・自律」に関するアンケート数値も、年間を通じて全項目で低下する結果となった。

この要因として、教師側の「見取り」と「働きかけ」の乖離が挙げられる。自律的な学習を促すための具体的な働きかけについて教師間の共通理解が不十分であり、個々の児童の状況をどう捉え、どのタイミングでどのように介入すべきなのかという「指導の焦点化」が図れなかったことが、児童の学習意欲の減退と学力の停滞を招いたと考えられる。

そこで今年度は、児童が困難を感じることなく、主体的に学習へ向かえるよう、以下の二点を研究の柱に据える。

第一に、児童に見通しをもたせ、心理的安全性を担保した学習環境の構築である。学習のゴールやプロセスを可視化するなど、児童一人一人が「何を、どこまで、どのように進めればよいか」を自ら把握できる仕掛けを整える。活動の見通しが立つことで心理的な余裕を生み出し、試行錯誤を恐れずに学びを楽しむ姿勢を育てていく。

第二に、教師側による組織的な準備と具体的な支援の徹底である。児童の自律を単に放任に終わらせないよう、単元を通した学習教材の提示の工夫や、つまづきを想定した補助教具の作成など、どのような手立てを講じるべきかを全職員で協議していく。個々の経験に頼るのではなく、学校全体で支援の具体策を共有し、児童が主体的に学びを調整できるための伴走支援を目指していく。

(3) 研究仮説と研究内容

- ①児童一人一人が学習の見通しを持って心理的安全性を保ちながら学習し、
- ②教師が児童のつまずきを事前に想定した組織的で一貫した支援を講じれば、
- ③児童は自律的に学びを調整することができ
- ④基礎的・基本的な知識・技能の定着と活力の向上（学力向上）につながるだろう。

【研究内容】

①学習の見通しの在り方

- ・単元全体の学習計画表を共有し、児童が「今どこを学んでいるか」を常に確認できる環境を整える。
- ・「めあて→考える→話し合う→まとめる→振り返る」などの学習のパターン化により、思考の枠組みを安定させる。
- ・振り返りシートを活用し、前時の課題を次時の目標に接続させ、自己の学びの調整をさせる。

②組織的で一貫した支援

- ・教科担当制（国語科・算数科）を導入し、系統性を整理して全学級で「教えるべき核心」を揃える。
- ・国語科・算数科チームによる授業検討会を定期的に行き、「どこで児童がつまずくか」の視点で教材研究する。また、宿題についても共通認識のもと取り組む。
- ・チームで児童の苦手を共有し、「帯タイム」で共通課題に取り組む時間を設ける。
- ・隙間時間を「各自の自由時間」にせず、課題や直しなどの時間に充ててやり切らせることで達成感をもたせる。
- ・教師の得意分野を還元するミニ研修の導入し、教師のスキル向上の時間を設ける。

③自律的な学び

- ・「型」を身に付けることが自律的な学びを進めるよりどころとなる。何をすればいいか明確な課題を設定し、適切な支援（環境）があることで、児童は迷わず学びに向かうことができ、「自分はできる」「自分はわかる」という自信と心理的安全性につながる。
- ・日々のルーティーンや学習のパターン化で足並みを揃え、クラス全員で同じ課題に挑み、協働的に学ぶことで、学習のモチベーションを維持する。

(4) 検証の指標

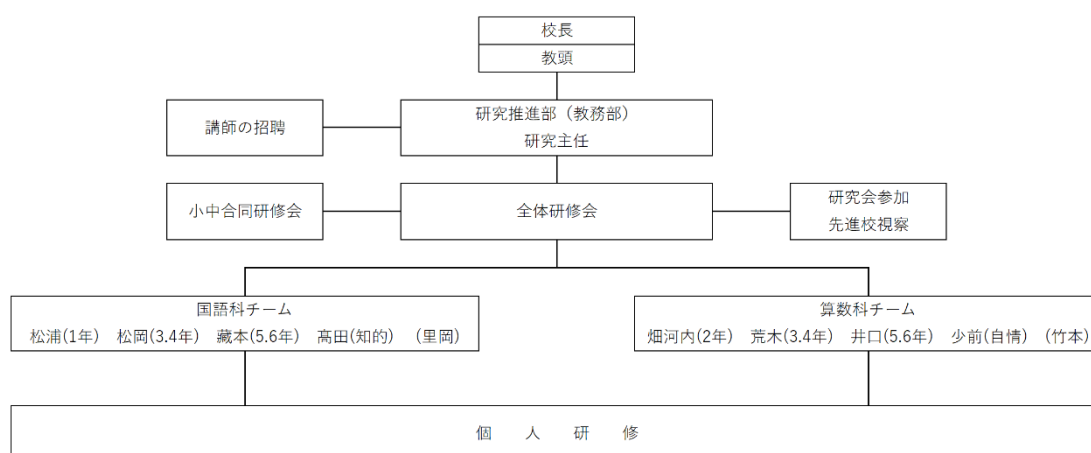
内容	指標	調査時期	R7 実績値	目標値
①	学習行動調整力についての調査質問紙（3年生以上）	4月 1月	見通し 2.78 協働 3.03 自律 3.01	全ての項目 3.0以上
②	教員への記述アンケート	学期末		成果と課題をリストアップ。
③	自律的な学習意欲に関する意識調査（4年生以上）	4月 1月	同一的調整 10.78	同一化的調整 10.0以上 (昨年度を維持)
④	単元テストの結果 標準学力調査の結果	単元末 年度末		・単元テストの平均 75%以上の児童の割合70%以上 ・江田島市学力調査達成率との比較 目標値達成率70%以上（学級ごと）

2 校内研修計画

(1) 研修方法

- 理論研修、実践交流、研究授業を通じて、教職員の授業力向上。
- 研究授業では、事前協議と事後協議を行う。

(2) 研究組織図



(3) 研修日程

月	日		研修形態	研修内容
4	19	日	全体研修	研修推進計画
5	12	火	全体研修	第1回校内研究授業の事前研究 (第4学年国語科・第6学年算数科)
6	1	月	全体研修	第1回校内研究授業 (第4学年国語科・第6学年算数科)
6	中旬		全体研修	得意分野還元ミニ研修会(希望者)
7	27	月	全体研修	第2回校内研究授業の事前研究 (第5学年国語科・第3学年算数科)
7	中旬		全体研修	得意分野還元ミニ研修会(希望者)
8	上旬		全体研修	得意分野還元ミニ研修会(希望者)
7	29	水	全体研修	第3回校内研究授業 (第1学年国語科・第2学年算数科)
9	29	月	全体研修	第2回校内研究授業 (第5学年国語科・第3学年算数科)
11	27	金	全体研修	第3回校内研究授業 (第1学年国語科・第2学年算数科)
2	中旬		全体研修	研究の成果と課題について

特別支援学級は、巡回相談の時に授業参観、交流を行う。

3 研究公開の予定

なし

見通しをもち、自律的に学ぶ児童の育成

～ 一人一人の「できた!」を支える授業づくりの工夫と組織的支援 ～

